

## みんなのまつり

お母さんがとつぜん、「おまつりの手伝いする？」と聞かれて私はすぐに「する。」と言いました。お母さんの仕事はしょうがい者がかよっている、生活かいごで仕事をしています。その場所でまつりをして地いきの人たちに知ってほしいために行なうと言っていました。

まつりで行っ分かった事は、知的しょうがい者がある人には、ゆっくり話かけたらあいてに伝わったり、言葉をりかいてできない人やコミュニケーションがむずかしい人は、絵カードを使って「かきごおり下さい。」とお店の人に伝えて買っている人もいました。

絵カードを使うことであいてに伝わり、地いきでくらせるかのうせいがあるんだなと思いました。なかよくなった、しょうがい者の女の子に、「ねこふんじゃったひいて」と言われたのでキーボードでひきました。

いっしょに歌をうたったりしてひきおわったら「ありがとう。」と言ってくれて、音楽だけでこんなになかよくなれると思いませんでした。いっしょに楽しい時間をすごしてうれしい気持ちになりました。

しょうがい者の人たちもみんなとかかわらず楽しいことは楽しんだり、しょうがい者のはできることもあると地いきの人に知ってもらいたいです。

私たちが視かく的しえんがなければ生活がする事がむずかしいです。信号き、ひょうしき、お店の写真がついたメニューなどたくさんあるんだなと思いました。学校の時間わりがなければ次のじゅぎょうが分かりません。

あたりまえの生活の中に視かく的な物がこれだけあるとはだれも思わないと思います。私たちが生きるためには、どうしたらいいか、私は、これからを考えて、伝えていかないとダメじゃないかなと思います。しょうがいがあってもなくてもみんな同じ人間だからだ。